

# SRI 一橋大学消費者購買指数の基礎統計の

## SRI+への移行について

2021年9月13日  
一橋大学経済研究所  
経済社会リスク研究機構

2021年9月13日公表のSRI一橋大学消費者購買指数より、推計に用いる基礎統計をSRIからSRI+（何れも株式会社インテージの提供）に移行いたします。SRI+ではスーパーマーケットやコンビニエンスストアの調査対象店舗の床面積下限を引き下げて小型店舗を含めることで、調査店舗数を従来のSRIの約4000店舗から約6000店舗に大きく拡大しています。調査店舗数の拡大に伴い販売記録の観測数も大幅に拡大し、2021年6月最終週の観測数は従来のSRIの約1580万点から、約2510万点へ増加しています。また、カバーするカテゴリー数も従来のSRIの293から、322に拡大しています（SRI消費者購買支出指数ベース）。

[SRI+の詳細な説明はこちらをご覧ください。](#)

基礎統計のSRI+への移行に伴い、SRI一橋大学消費者購買指数では店舗形態別の指数を従来のGMS、スーパーマーケット、ドラッグストア、コンビニエンスストアから変更し、価格や販売増減の傾向が近いGMSとスーパーマーケットを統合し、新たにフードディスカウントストアを加えています。

### 新しい店舗形態別指数の分類

スーパーマーケット
ドラッグストア
コンビニエンスストア
フードディスカウントストア

また、店舗形態別の指数からはタバコの販売記録を除外しました。タバコはたばこ税の税率変更に伴う価格と売上数量の変動が大きく、マクロ経済的な需要や供給ショックによる価格指数や数量指数の変動に対してノイズになると考えられるためです。

消費者購買支出指数（POS-CEI）、消費者購買価格指数（POS-CPI）、消費者購買数量指数（POS-CQI）、消費者購買商品入替効果指数（POS-CTI）、及び、消費者購買容量単価指数（POS-UVPI）の推計方法については従来の指数と変更はございません。

[指数推計の詳細な説明はこちらをご覧ください。](#)

SRI+に基づく SRI 一橋大学消費者購買指数のより詳細な説明は後日、改めて掲示いたします。

以上